

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1066 号	氏 名	市 川 雪
論文審査担当者	主 査 本 田 孝 行 副 査 竹 下 敏 一 ・ 宮 川 眞 一		
(論文審査の結果の要旨)			
<p>WFA 陽性 Mac-2 結合タンパク (WFA⁺-M2BP)は、C 型慢性肝炎や原発性胆汁性胆管炎などの慢性肝疾患において、非侵襲的線維化マーカーとして有用であることが報告されている。本研究では、当院で 1998～2013 年に肝生検を施行した B 型慢性肝炎および肝硬変患者 112 例を対象とし、WFA⁺-M2BP の肝線維化ステージ診断能を他の線維化マーカーと比較検討した。さらに、同コホートを対象として肝細胞癌の発症予測マーカーとしての有用性を検討した。その結果、次の結論を得た。</p>			
<p>① 肝線維化進展にともない WFA⁺-M2BP 値は上昇し、肝線維化ステージと正の相関を認めた。</p> <p>② 肝線維化ステージ予測能を ROC で解析すると既存の線維化マーカーであるヒアルロン酸、IV型コラーゲン 7S, APRI, FIB4 インデックス、血小板数と比較して同等の有用性を認めた。</p> <p>③ 肝細胞癌発症を予測する因子の単変量解析では、年齢、線維化ステージ、WFA⁺-M2BP、ALT、ヒアルロン酸、FIB4 インデックス、血小板数、AFP、核酸アナログ治療の有無に有意差を認めた。一方、多変量解析では、性別 (男性)、WFA 陽性 Mac-2 タンパク (0.71 COI 以上)、ALT (80 IU/ml) 以下)、血小板数 (14.5 万以下) が独立した危険因子として抽出された。WFA⁺-M2BP をカットオフ値 0.71 で 2 群に分け、カプランマイヤー法にて累積肝細胞癌発症率を比較したところ、0.71 以上群で有意に高い発症率であった。</p>			
<p>以上の結果より、WFA⁺-M2BP は B 型肝炎の肝線維化マーカーとして有用であると考えられた。さらに、肝細胞癌発症の予測因子として有用である可能性が示唆された。</p> <p>よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			